

学校の共通目標

授業づくり	重点	全ての授業において I C T機器を日常的に活用し、これを用いて生徒自らが発表する参加型の授業展開し、全員が共有できる授業をめざす。	中間評価		最終評価	
環境づくり		毎時間の授業のねらいや到達目標を明示し、全ての生徒がわかる授業を展開する。				

教科の取組み内容

教科	学習状況の分析（４月）	課 題（４月）	改善のための取組み（４月）	中間評価・追加する取組み（10 月）	最終評価（２月）
国語	調・（３学年）各分野でおおむね目標値を超えることができた。度数分布では、上位層が多い結果となった。経年変化では前年度に比べ数値が上がった。「話すこと・聞くこと」の分野では目標値は越えたものの、全国を下回る結果となった。 ・（２学年）各分野でおおむね目標値を超えることができた。平均正答率では、ほとんどの分野で、区、全国を上回る結果となったが、「書くこと」だけは全国と区を下回る結果となった。 学・授業開始 5 分間の漢字学習は定着してきたものの、家庭学習の習慣が定着しておらずが必要である。 ・「話すこと・聞くこと」においては、語彙の少ない生徒が多く見られた。「聴く」力にも課題がある。 ・「書くこと」は自分の言葉で自分の意見を述べることに慣れていない、ということが顕著に表れる結果となった。	・３学年では「話すこと・聞くこと」に、２学年では「書くこと」に課題が残った。 ・３学年では、全体的におとなしい生徒が多いが、読み取ったことや考えたことを自分の言葉で表現することに苦手意識を持っている生徒が多い。また、相手の言葉を理解して「聴く」ことも課題として残る。 ・２学年では、板書を写すことはできるものの、自分の意見やメモなどを活用する力に課題がある。また、長文を書く機会も少なく、論理的に文章を組み立てる部分に課題が残る。	・授業の中での発表だけでなく、グループワークや日常生活の中でも「話すこと・聞くこと」を意識付けさせる取り組みを行う。 ・語彙を増やすため、様々な作品に触れさせる。 ・発表の場面を増やし、話す態度や聞く態度などの指導も細かく行い、生徒一人一人に自信を持たせる場面を作っていく。 ・俳句や短歌などの短文から、感想文などの長文を多く書かせる。校内だけでなく外部団体への出品などを通して、書くことに慣れさせていく。		
社会	・昨年度の学力調査の結果、目標値を超えることができなかった。領域によって達成度にばらつきがある。 ・達成率が低い領域には 1 学期や 1 年次に学習したものが多くみられた。 ・観点では比較的知識・理解の項目の達成率が低い傾向が見られた。	・学習後の知識の定着に課題がある。 ・文章での表現や記述が苦手な生徒が多い。 ・自ら積極的に発言する姿勢に欠ける。	・ノートの取り方等から知識の定着に必要な方策を取る。 ・ワークシートを工夫し、学習中に得た知識を活用させ、定着を図る取り組みを行う。 ・単元ごとを目安として定期的に学習を振り替えさせるような取り組みを行う。		
数学	調・（３学年）各分野の目標値は越えている。平均正答率では、区に比べ、昨年度よりも本年度は全体として向上した。しかし、分野別の正答率では、関数は正答率が高いが、図形分野については、課題が残った。 ・（２学年）区平均正答率と目標値は越えているが、一方で、分野別にみると、関数が目標値より下回った。 学・習熟度別少人数展開を行っているが、未定着のクラスほど、授業に集中することが課題である。また、提出物において課題となる生徒が多くなる傾向にある。家庭学習にも課題があり、宿題を意欲的にやる生徒とやらない生徒の差がある。	・３学年では図形分野に、２学年では関数分野に課題が残っている。問題解決型授業を展開おり、数学的な見方・考え方の向上につながったと考えられる。また、処理などの数学的な技能につながっていないのが課題である。 ・学習内容がその時間だけで、完結してしまい、計算手順だけを覚えようとするので、時間が経つと忘れてしまい、他の内容と結び付けて考えられない生徒がいるので、基礎学力の定着に結びついていない。また、分からない問題を聞いたり調べたりする力に課題が残る。	・図形分野・関数分野も含んでいる計算問題を、授業の開始 5 分で毎回行う。 ・ノートの作り方を定型化し、どのような生徒にとっても分かりやすい板書計画を立てる。 ・習得・活用・探究の学習過程全体を見渡しながら、「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」の三つの視点に立った活動を取り入れる。		
理科	調・全体的に区の平均正答率を上回っているが、目標値には及ばない状況であった。 ・正答率が目標値を上回った内容は、実施直前に授業で取り扱った内容である。 ・観察、実験の技能の領域で、正答率が低い。 学・授業では与えられた課題に意欲的に取り組んでいるが、基礎・基本的な知識、技能が確実に定着していないため、自信がもてない生徒が多い。授業中の発言や発表などの活動を通して、自信をもって授業に臨むことができるよう配慮している。	・意欲的に学習に取り組む生徒が多いが、基礎・基本的な知識、技能が確実に定着していないことが課題である。 ・観察や実験の結果から筋道を立てて考察し、自分の言葉で表現することに課題がある。	・学習内容の定着のために、授業で学習したことを記録するよう、ノート指導を定期的に行う。 ・授業中に問題演習の時間を設け、繰り返し取り組むことで、基礎学力の定着を図る。 ・授業の中で、観察や実験の結果を個人やグループで話し合いながらまとめ、レポートや言葉で発表する活動を行う。		

英語	調 (3 学年) ・リスニングの力、語彙の理解と語形・語法の知識・理解は区正答率並みに力がついている。英作文の力は区正答率よりも大きく数値が上回っている。ただし、長文を読む力が下回っていた (2 学年) ・全体的に、区の正答率を大きく上回っている。学年全体は基礎的な力が付いており、特に、場面に応じて書く英作文の力は付いている。ただし、3 文以上の英作文を書かせる問題は区の正答率を少し下回っている。また、語彙力が不十分である。 学 ・全学年、小テストなどは努力している姿が見られるが、提出物に関してはいつも同じ生徒が出せていないことがあるので、言葉掛けを行っていく必要がある。授業中は積極的に発言を行っているので、全生徒が発言できるよう配慮している。	・各学年、教科書の本文・単語等の発音と意味を確実に覚えさせて、書く指導にも力を入れていく必要がある。 ・授業では書かせる時間を十分にとることができないので、家庭でできる課題の工夫が必要である。 ・長文（対話文・説明文）を読む力を付けることが必要である。特に、代名詞に気を付けて 5 W 1 H を意識させて正確に読む機会が大切である。 ・コミュニケーションの能力を伸ばすために会話に関する情報収集や自分の感情・気持ちをまとめることに課題がある。 ・各学年とも小テストを計画的に実施し語彙力を付けていきたい。	・授業中に生徒が英語を発音する機会・時間を増やし、スピーチやスキットなど、テーマや場面を設定した中で、感情をこめて発表ができるように指導する。 ・授業の復習となるような、書かせる宿題を生徒の負担にならないように出す。 ・教科書以外の長文（文章）にも触れる機会をもつ。 ・ALT の先生との授業ではコミュニケーションの時間を増やし、生徒の主体性を伸ばし、間違いを恐れない態度を養う。		

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は 2 ページ以上となってもよい。